



進化学若手の会主催セミナー

# “進化”を通して見るさまざまな生物

開催日時：2026年1月17日（土）、18日（日） 14:00~16:30（両日とも）

開催形態：オンライン（Zoom） 開催時に使用する言語：日本語

様々な生物について、進化学の研究を紹介するセミナーです。進化学の幅広さと魅力を感じ取って頂きたいです。  
学部生・高校生など、学び始めたばかりの方も大歓迎です！

17日（土）

**桂 有加子 先生**（京都大学ヒト行動進化研究センター）

演題：カエルの性染色体進化をゲノムから読み解く

カエルでは、性染色体が何度も生まれ変わるという特徴的な進化が見られます。本講演では、ゲノム解析を通して明らかになってきた、性染色体進化のダイナミックな姿を紹介します。

**井川 武 先生**（広島大学両生類研究センター）

演題：温泉ガエルの環境適応から見るゲノム・遺伝子進化

日本列島は南の亜熱帯から北の冷帯まで広がり、すべての生物にとって不可欠な温度適応進化の“実験場”といえます。本講演では、温泉に耐えるリュウキュウカジガエルと冷涼な本州に暮らすカジガエルという対照的な2種について、異なる温度環境への適応とその進化の仕組みをゲノムと遺伝子の視点から探ります。

18日（日）

**上坂 将弘 先生**（東北大学 大学院生命科学研究所）

演題：脊椎動物の発生におけるゲノム制御と形態進化

動物の個体発生はゲノム情報に基づき駆動され、このプロセスの変化が形態進化につながります。本発表では、遺伝子発現のスイッチである「遺伝子制御領域」に着目して行ってきた、脊椎動物の発生と進化の関係性や多様な形態が生まれるメカニズムについてお話しします。

**新美 輝幸 先生**（基礎生物学研究所進化発生研究部門）

演題：テントウムシ斑紋とカブトムシ角形成の分子基盤

昆虫は進化の中で、斑紋や角といった多様でユニークな形質を獲得してきました。本セミナーでは、テントウムシの斑紋やカブトムシの角が、どのような遺伝子のはたらきによって作られるのかを紹介します。

参加登録：こちらのGoogleフォームから→  
（締め切りは2026/1/15 18:00です）

<https://forms.gle/Ttj8izvMvo1tFrz17>

ご不明な点などございましたら、右記のメールまでお問い合わせください。



共催・助成：

統合進化科学研究センター

RCIES葉山学術集会助成金により、本セミナーは企画・運営されています。

<https://rcies.soken.ac.jp/>

お問い合わせ：

[evowakate@gmail.com](mailto:evowakate@gmail.com)

X：@evowakate

HP：<https://evowakate.wixsite.com/website>

